

令和元年7月吉日 副理事・所長 海老澤政昭

社会福祉法人の登記が令和元年6月21日付けにて終了しました。ごうでいんぐ岩世ヶ原建設に向けて一般競争入札の公告を行いました。一步一步、確かに、新たな体制へ向けた歩みを続けていることを実感しています。

富士特別支援学校高等部3年生による産業現場等における現場実習が終わりました。B型における実習では、現在、実施していない状況下での実習となり、支援員も手探りの中での取り組みとなり、参加した支援員も含め事業所としてたいへん勉強になったと感じています。現在の就労継続支援B型事業における労働は、工賃を上げることが重要とされています。工賃の上昇が報酬単価の上昇にも連動しています。工賃を上げることが大切なことだと思いますが、共同作業所作り運動の中で目指してきたスローガンの中に“働く中でたくましく”というフレーズがあります。この意味には、どんなに障害が重くても「労働の保障を」ということが含まれています。B型事業所に通所する仲間たちを限定してはいません。私たちは労働を通して発達をしていきます。田中昌人氏は発達保障論の中で「個人の発達の系、集団の発達の系、社会の進歩の系の総合的、民主的な実現」を呼びかけてきました。この「集団の発達の系」については、2006年、立命館産業社会論集「私の人間発達論」（加藤直樹氏）の中で、「個人は集団を媒介において社会発展に寄与する、集団化する中で社会発展にかかわる」「社会的矛盾は集団を媒介にして個人に作用する」等と提起されています。また、「支える集団」があると直接個人に与える影響は緩和されるとも言っています。加えて、「集団の質」「集団の量」についても検討課題として述べています。共同作業所作り運動の中で生まれた「仲間集団」と現在のB型事業所における「仲間集団」での違いはないのでしょうか。また、地域社会との連動の中で、その「仲間集団」が“地域”という集団とかかわることによって、仲間たちひとり一人への個人の発達への影響はないのでしょうか。

まだまだ勉強不足です。「仲間集団」について取り組まれている事業所等がありましたら、ぜひ、それら取り組みをご紹介していただければ幸いです。

ごうでいんぐ岩世ヶ原での今後の取り組みは、いろいろな意味で、わくわく・ドキドキがありそうで、とても楽しみです。ご家族の方々にもぜひご意見、ご協力をお願いしたいと思います。

## 《現場体験実習・生活介護／就労継続B型》

6月の現場体験実習が行われました。来年度新規に立ち上がるB型と生活介護への高等部さんが来られ笑顔の溢れた実習となりました。



## 【編集後記】

私たち職員も新しくできるB型や生活介護が楽しみです!!

7月6日(土)伊豆ゲートウェイ函南にて「WaRau かなみ」というイベントにて、地域の就労支援施設のグッズを店頭販売するそうです。私も行ってみたいと思います。

皆さんもお時間がありましたら是非行ってみて下さい。

今月担当 今泉ダイ木内